

国道 138 号拡幅に伴う周辺地域まちづくり検討委員会

第 2 回

— 重点検討区間の検討（案） —

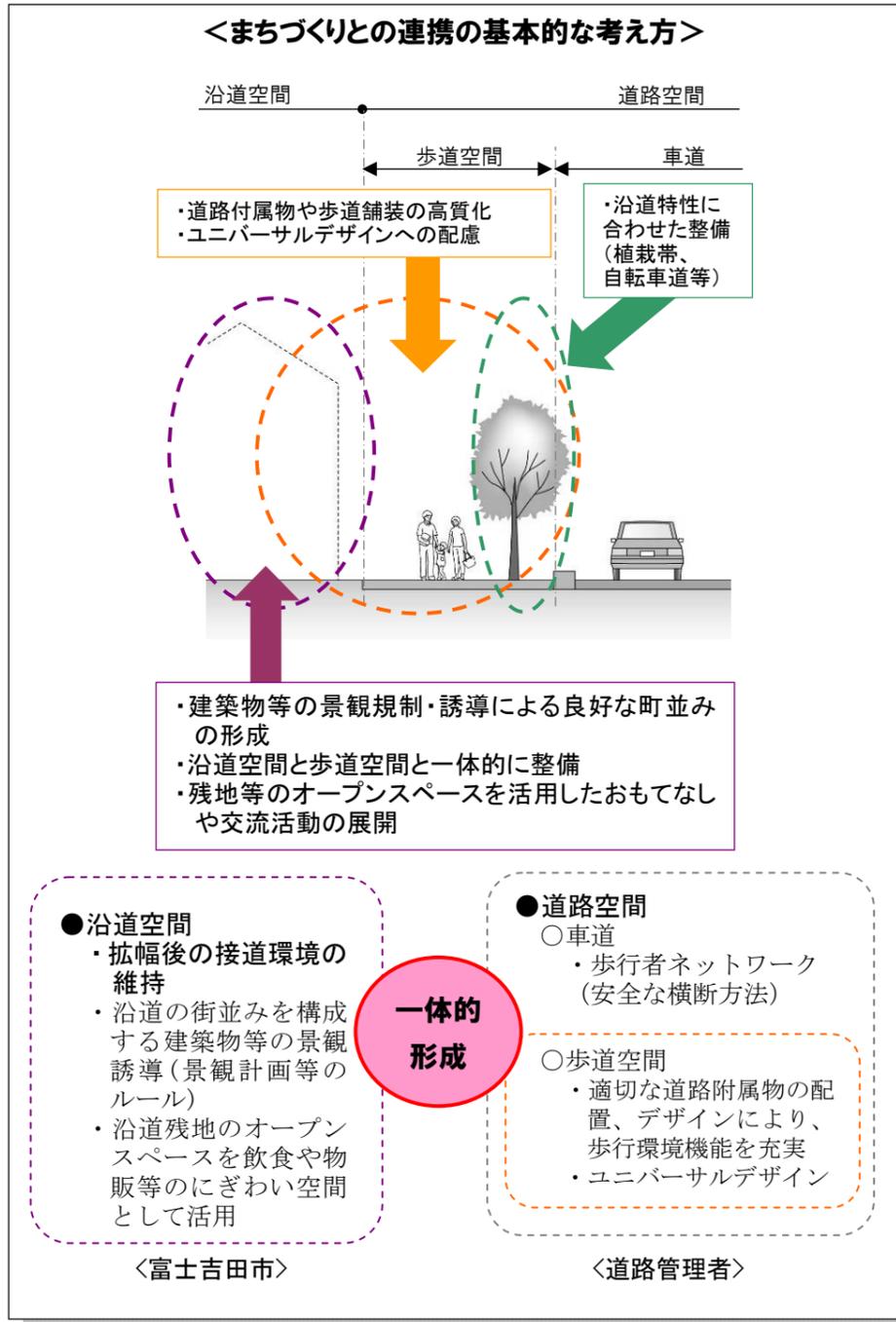
目 次

1. 沿道まちづくり方針	1
2. 重点検討区間の検討	2
2-1. 重点検討区間①（富士浅間神社前）	
2-2. 重点検討区間②（リフレふじよしだ前）	
3. 道路空間の景観形成方針	8

平成 26 年 3 月 25 日

1. 沿道まちづくりの方針

(1) 道路空間におけるまちづくりとの連携の方向性（案）



ゾーンにおける景観のコンセプト

① 中曽根～金鳥居～上宿

<おもてなしに配慮したみち空間の形成>

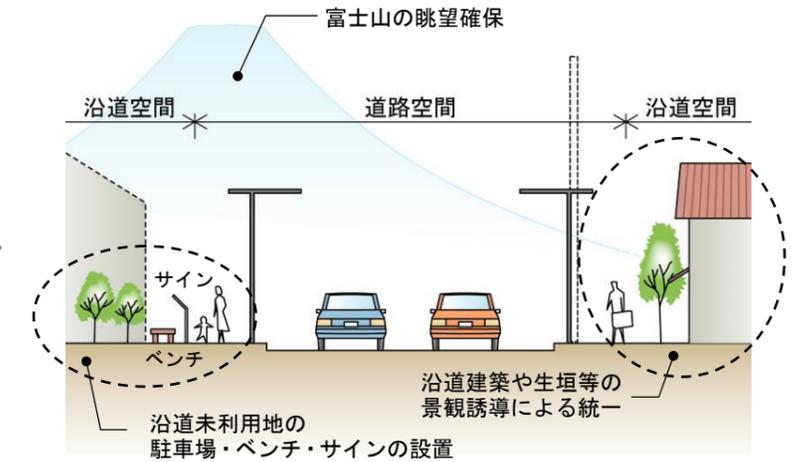
- 御師の家並みや富士山の眺望と調和した良好な町並み景観の誘導
- 来訪者の回遊を支える空間演出



水汲み場



休憩施設



② 上宿～富士浅間神社～新屋

<参道的空間の創出>

- 拡幅に伴う沿道空間との一体的整備
- 沿道空間との一体的整備
- 富士浅間神社と一体となった落ち着きと風格のある道路空間の形成
- 歩行回遊動線の形成



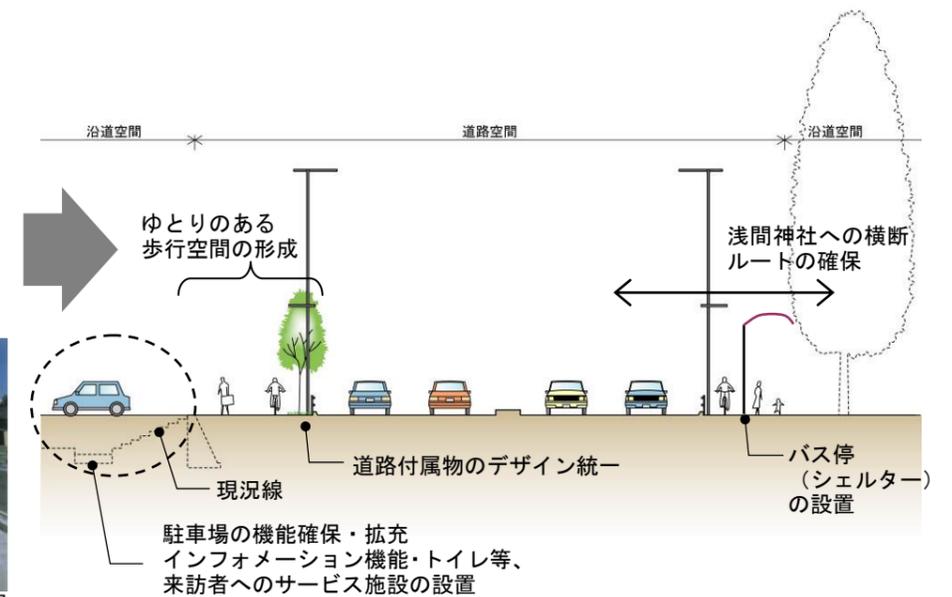
休憩施設



統一したサイン



落ち着いた歩行空間



③ 新屋～富士見公園前

<市の玄関口にふさわしい観光交流軸の形成>

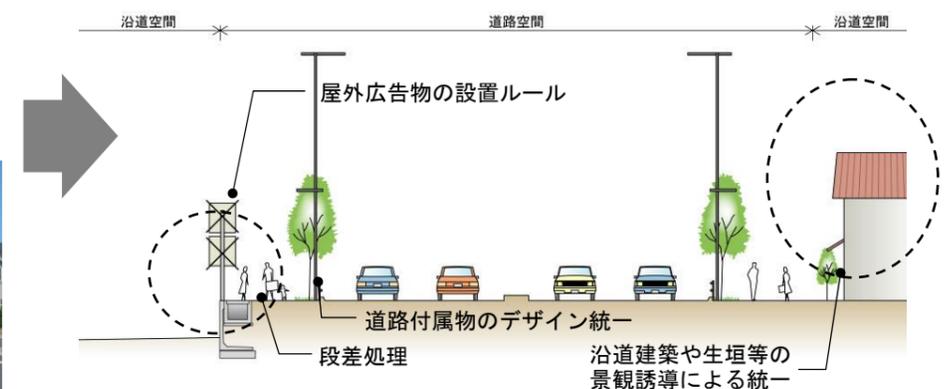
- 自然環境と調和した沿道環境の保全・形成
- 交差点の特徴的な景観形成
- 沿道土地利用の変化に対応した景観形成・誘導



沿道の自然環境と調和した空間



景観誘導による統一感の形成(例)



2. 重点検討区間の検討

* 重点検討区間は、沿道まちづくりと協調した沿道景観形成を考慮する中でも、地域の「シンボル」として特に検討を行う区間を想定。

2.1 重点検討区間①(富士浅間神社前)

(1) 現状と課題

歩行者の安全性・快適性が不足

現状 上宿～富士浅間神社東交差点（特に、駐車場～富士浅間神社入り口）は、多くの観光客が利用する道路（歩行）空間である。

課題 両側の歩道幅員は狭く、浅間神社前の横断歩道は信号が無く、歩行者の安全性・快適性が損なわれている。

富士浅間神社と御師のまちなみの一体化が不十分

現状 富士浅間神社の鳥居と境内の杜は一体となって、荘厳な印象を与え、地域のランドマークとなっている。

課題 富士浅間神社と御師のまちなみが十分に一体化されていない。

国道 138 号拡幅に伴う沿道の課題

現状 現在の国道 138 号沿道は、民家、商業施設が混在した土地利用となっている。

課題 拡幅に伴い、国道 138 号北側（富士浅間神社の向かい）に、残地や高低差の対応が必要になる。

(2) 整備方針：参道的空間の創出

国道 137 号～富士浅間神社の安全な歩行回遊動線の形成

- ・ 国道 137 号からの歩行者の回遊性を高めるため、安全に回遊できるルートや浅間神社前の横断方法を検討し、富士浅間神社へのアクセス性向上を図る。
- ・ 上宿～浅間神社東交差点間に信号機の設置を検討する。

拡幅に伴う沿道空間との一体的整備

- ・ 道路拡幅に伴う残地の利活用について、道路（歩道）空間との一体的整備により、来訪者の休憩空間、地域住民のコミュニティの場として活用できる空間を創出する。とりわけ、浅間神社前には、駐車場の機能確保とともに、地域産業と連携した拠点性のある空間の整備を図る。

富士浅間神社を核とした落ち着きと風格のある道路空間の形成

- ・ 道路附属物のデザインや、落ち着きのある舗装素材、パターンを検討し、国道 138 号の景観形成上のシンボル区間として富士浅間神社の歴史・文化をかもし出す参道景観の形成を図る。

沿道の交通処理の円滑化（新屋拡幅区間共通の方針）

- ・ 道路幅員が 24.0m に拡幅に伴い段差が生じるため、出入口の機能の確保を検討する。
- ・ 中央分離帯の設置に伴い、現状で右折可能な箇所が整備後に右折できなくなる箇所が生じることから、その迂回ルートの対策が必要である。
- ・ 通学路の安全性確保、農耕車両の横断方法など、地域利用の機能確保が必要である。



正面から眺める富士浅間神社



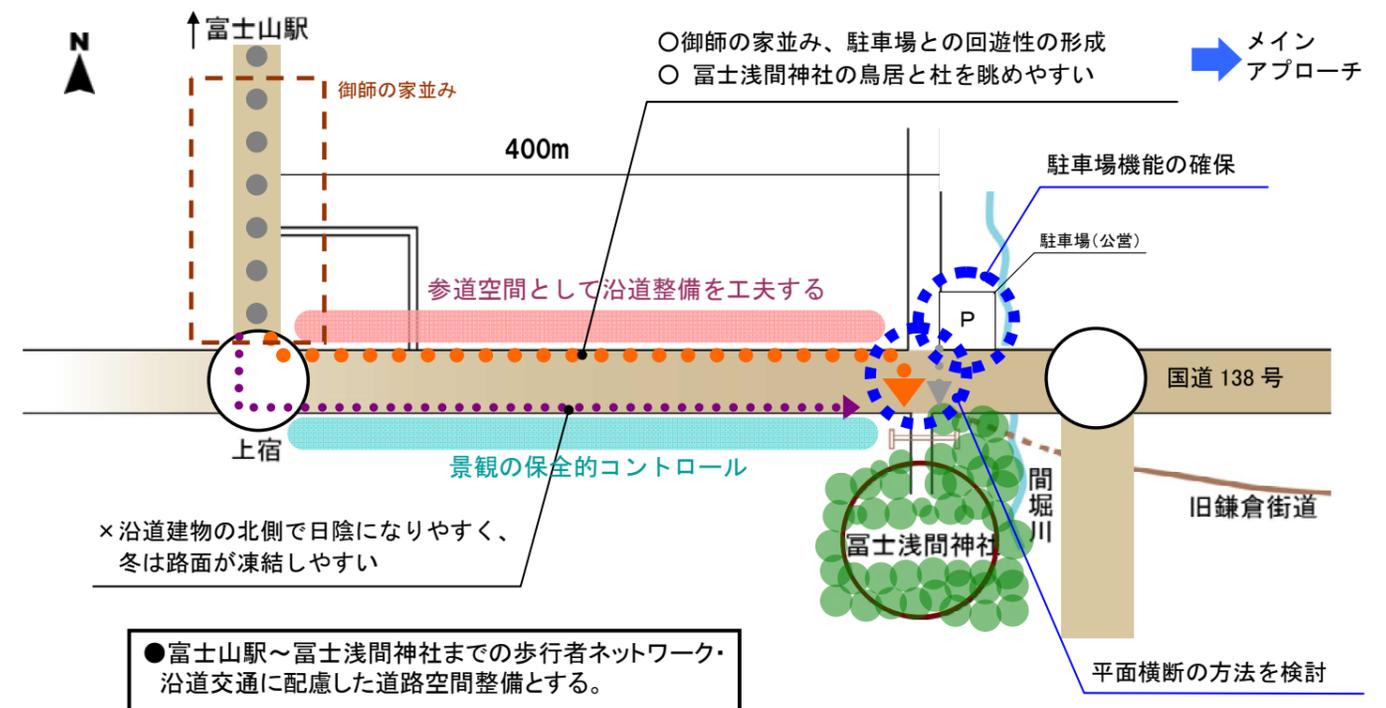
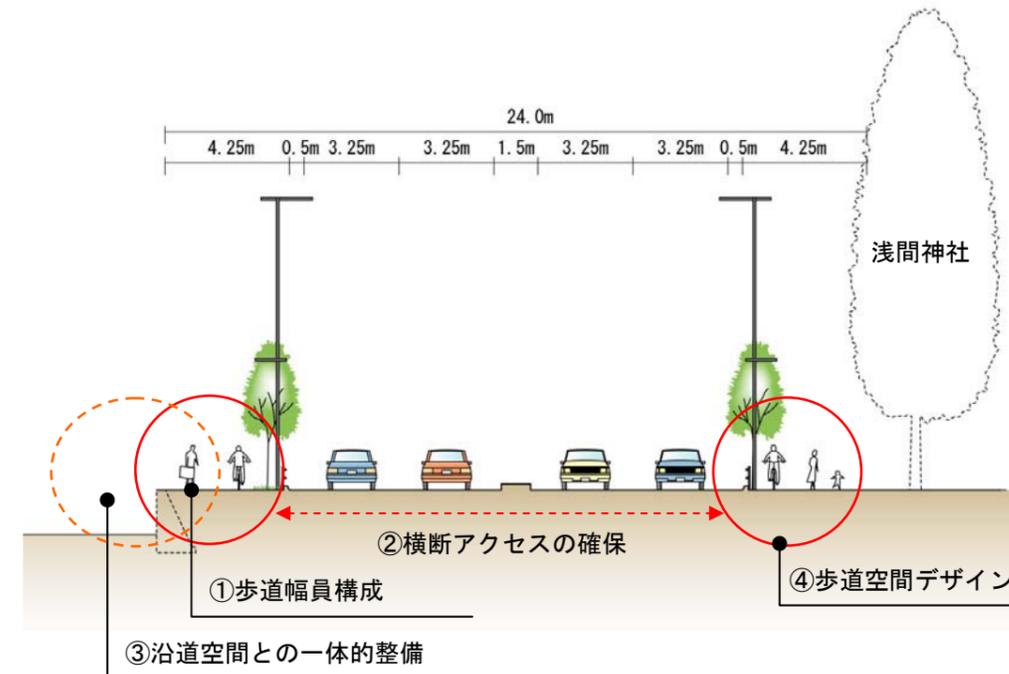
浅間神社前の歩行空間・横断の状況



浅間神社前の土地利用の状況

(検討のポイント)

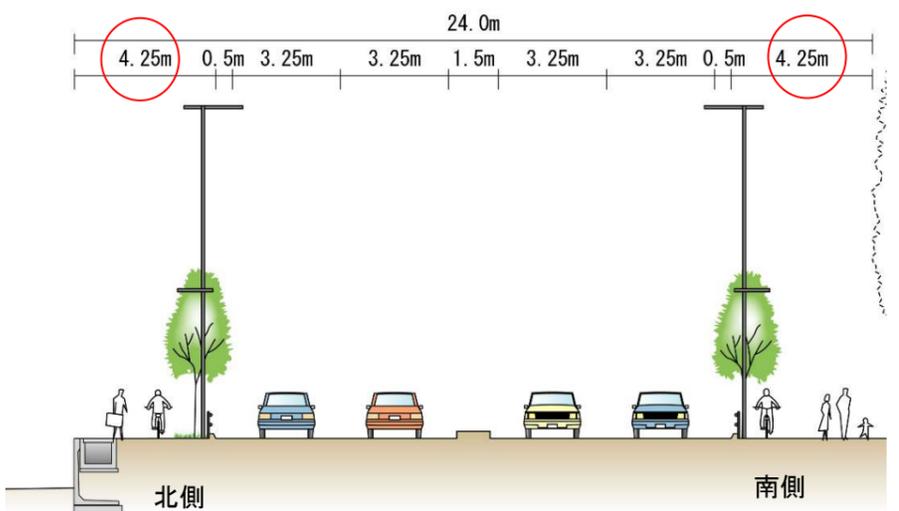
- ① ゆとりある歩行空間の形成によって、参道としてのアクセス機能の充実が求められる
- ② 富士浅間神社への横断アクセスを確保して、分断要因の軽減を図る必要がある
- ③ 沿道空間と一体となった整備が必要である
- ④ 来訪者を迎え入れ、地域に誇れる高質な歩道空間デザインが求められる



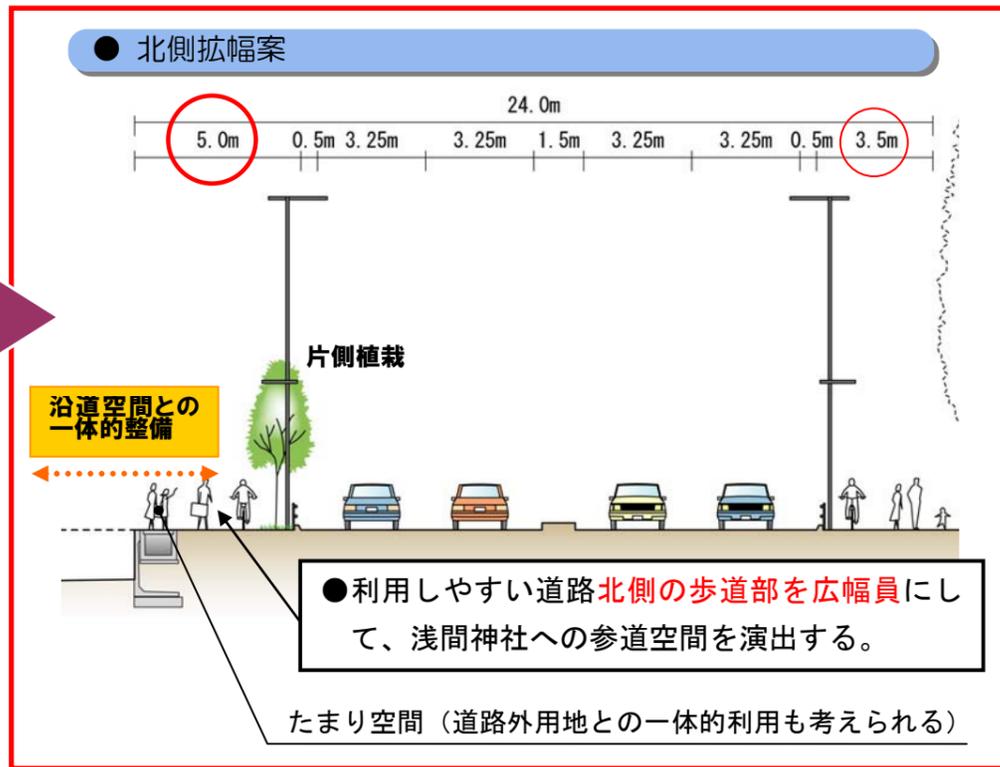
(3) 整備の方向性

① ゆとりある歩行空間の形成

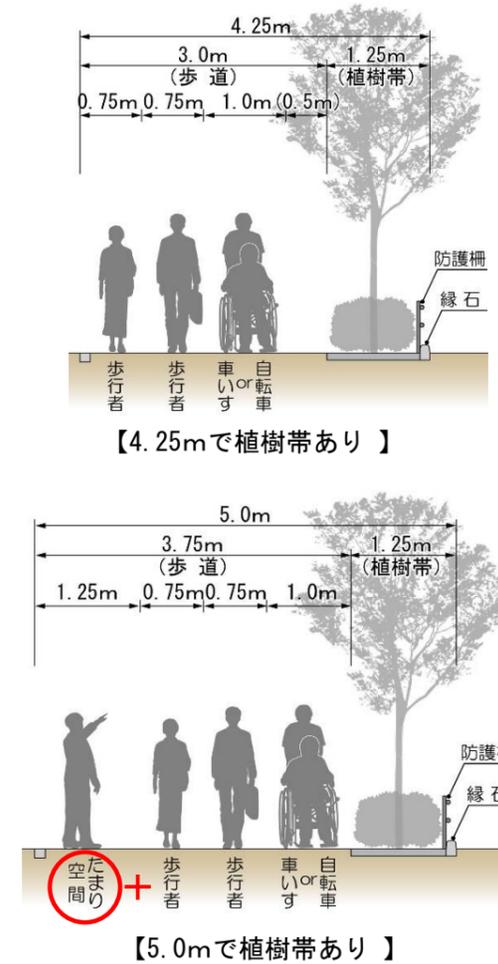
● 標準案



- 富士浅間神社前は、北側歩道を拡幅する
 - ・ゆとりのある歩行環境の形成を図る
 - ・市の沿道まちづくり計画との一体的利用を期待する



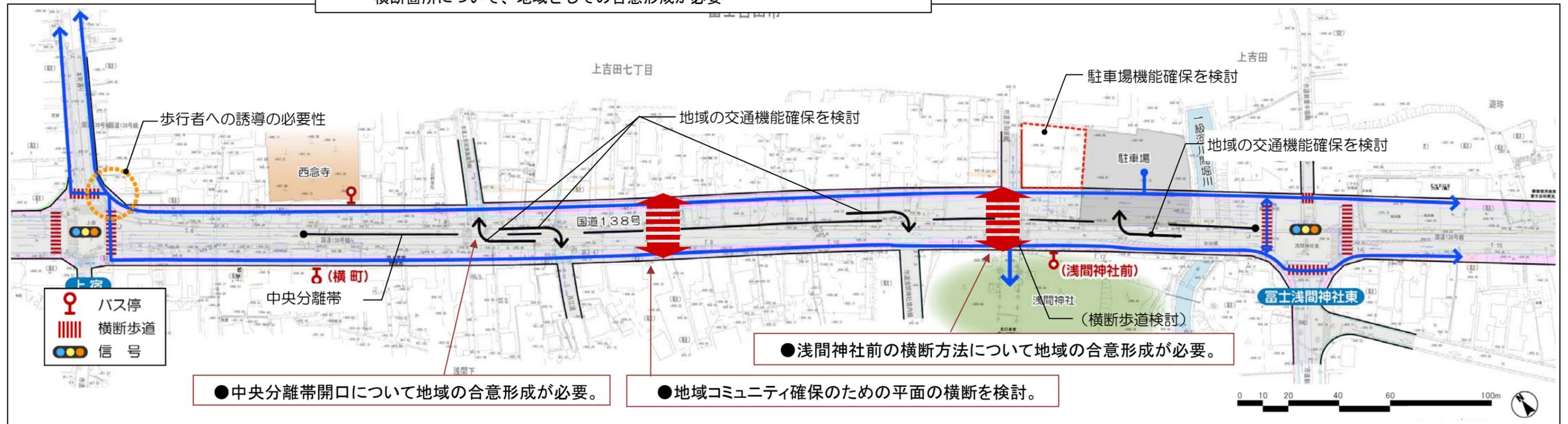
(参考) 歩道幅員と基本寸法



② 富士浅間神社へのアクセス

◆ 拡幅整備後の動線イメージ

- 富士浅間神社にアクセスする平面の横断を検討する
 - ・横断歩道は富士浅間神社前（鳥居）が望ましいが、原則設置できない
 - ・横断箇所について、地域としての合意形成が必要



③沿道空間との一体的整備

- 国道 138 号北側の沿道未利用地の一体的活用によるゆとりある歩行空間の実現や富士浅間神社前駐車場との一体的整備を目指す



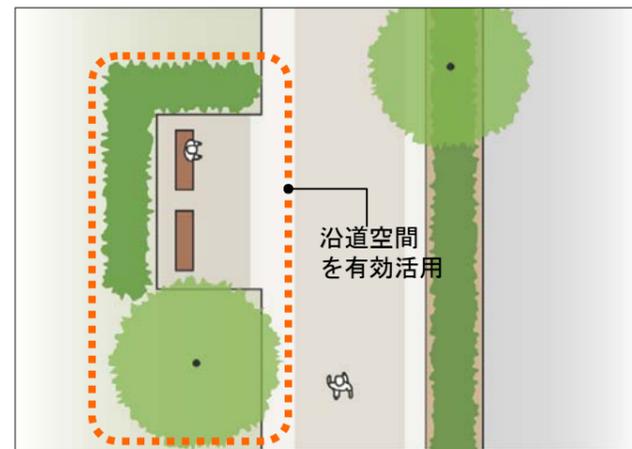
交差点部の空間を有効活用している事例



沿道空間を有効活用している事例



交差点部の道路外用地を活用して歩行・たまり空間を確保



道路外用地を活用して休憩スペースを確保

④歩行空間デザイン

- 富士浅間神社前は、高質な素材、デザインにより、富士浅間神社の参道的空間の形成を意識した景観づくりを目指す



一般部の整備イメージ（歩道幅員 5.0m）

【検討イメージ】



植栽はしないで、より歩行空間を確保した場合



舗装の色彩やパターンを変化させた場合

2.2 重点検討区間②(リフレふじよしだ前)

(1) 現状と課題

自然豊かでありながら、景観阻害要因のある交差点空間

現状 山中湖方面の沿道自然植生区間から開けた景観となり、**富士吉田市の玄関口(東口)**である。

課題 自然環境の豊かな空間にありながら、大小の看板が乱立し、**景観を阻害する要因が発生**。



道の駅富士吉田の利用状況

沿道の土地利用の変化

現状 沿道は豊かな自然植生の区間と商業施設等の立地する区間がある。

課題 拡幅事業により、国道 138 号沿道の土地利用が**変化する可能性**がある。



富士見公園交差点付近の状況

一体的に利用しやすい動線の不足

現状 地形変化の大きい沿道空間に、**地域資源(博物館、道の駅、レーダードーム館、富士見公園など)**が沿道に立地し、観光拠点となっている。

課題 地域資源が分散配置されており、**一体的に利用しやすい動線が確保されていない**。



リフレ富士吉田入口交差点付近の状況

(2) 整備方針：玄関口にふさわしい観光交流軸の形成

富士吉田市の玄関口のゲート性の演出

- 沿道の自然環境を保全しながら、交差点(リフレ富士吉田入口・富士見公園前)空間にランドマークとなる植栽を配し、道路付属物(道路照明、横断防止柵など)を単調になりがちな道路景観のアクセントとし、**富士吉田市へのゲート性を演出**する。

沿道土地利用の変化に対応した景観形成・誘導

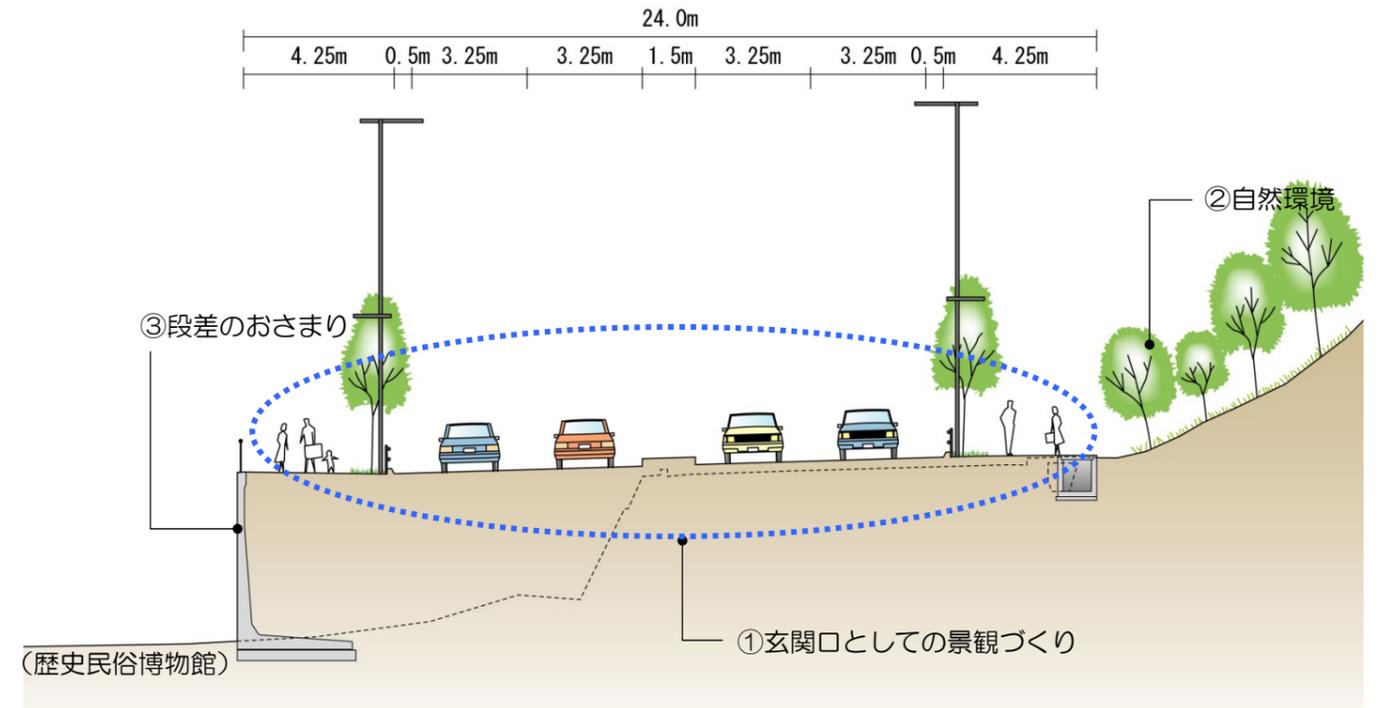
- 拡幅に伴う沿道建物の建替えに関して、建築、屋外広告物等の規制・誘導を図り、**統一感のある景観形成**を図る。

地域資源をつなぐ安全で利用しやすい歩行空間の確保

- 沿道の地域資源(博物館、道の駅、レーダードーム館、富士見公園など)をつなぐ道路空間として、**安全な歩行空間を確保**するとともに、サイン設置による**歩行誘導機能の充実**を図る。
- また、旧鎌倉往還や東海自然歩道、城山など**身近な自然環境とのネットワーク化**を図る。

(検討のポイント)

- ① 交差点部は、東の玄関口としてふさわしい景観づくりが求められる
- ② 沿道の自然環境と調和、変化する土地利用に対応した景観規制・誘導が必要である
- ③ 拡幅によって生じる段差を解消し、地域資源をつなぐ歩行環境の形成が必要である



(歴史民俗博物館)

(3) 整備の方向性

① 富士吉田市の玄関口・ゲート性の演出

- リフレふじよしだ、富士見公園前交差点の景観整備を図る
- 沿道の自然環境と調和した道路景観を形成する



ランドマークとなる交差点のシンボル樹
(事例：東京都中央区)



自然と調和した沿道景観の演出
(事例：高山市景観計画 奥飛騨温泉郷景観重点区域)

② 沿道土地利用の変化に対応した景観形成・誘導

- 富士吉田市の景観計画との整合を図り、景観まちづくりの骨格軸の役割を果たす
- 屋外広告物の規制・誘導を図る



景観地区指定の事例
(事例：若宮大路、鎌倉市鎌倉景観地区)



景観整備事例 (事例：松本市)

③地域資源をつなぐ安全で利用しやすい歩行空間の確保

●富士吉田市の計画と調整し、リフレぶじよした周辺の各拠点施設をつなぐ安全な歩行空間の形成を図る



道の駅交差点



富士吉田市歴史民俗博物館

■ 安全な歩行空間の事例（事例：国営讃岐まんのう公園）



- ・ 沿道の小高い地形を利用して歩道橋を設置し、2つのエリアを結ぶ安全な歩行空間を確保
- ・ 周辺の自然景観に馴染むデザイン、色彩の採用



道の駅エリア



富士山レーダードーム館



豊かな沿道の既存林

3. 道路空間の景観形成方針

道路空間を構成する主な付属物のデザインは、以下の方針で検討を行う。

●景観形成コンセプト

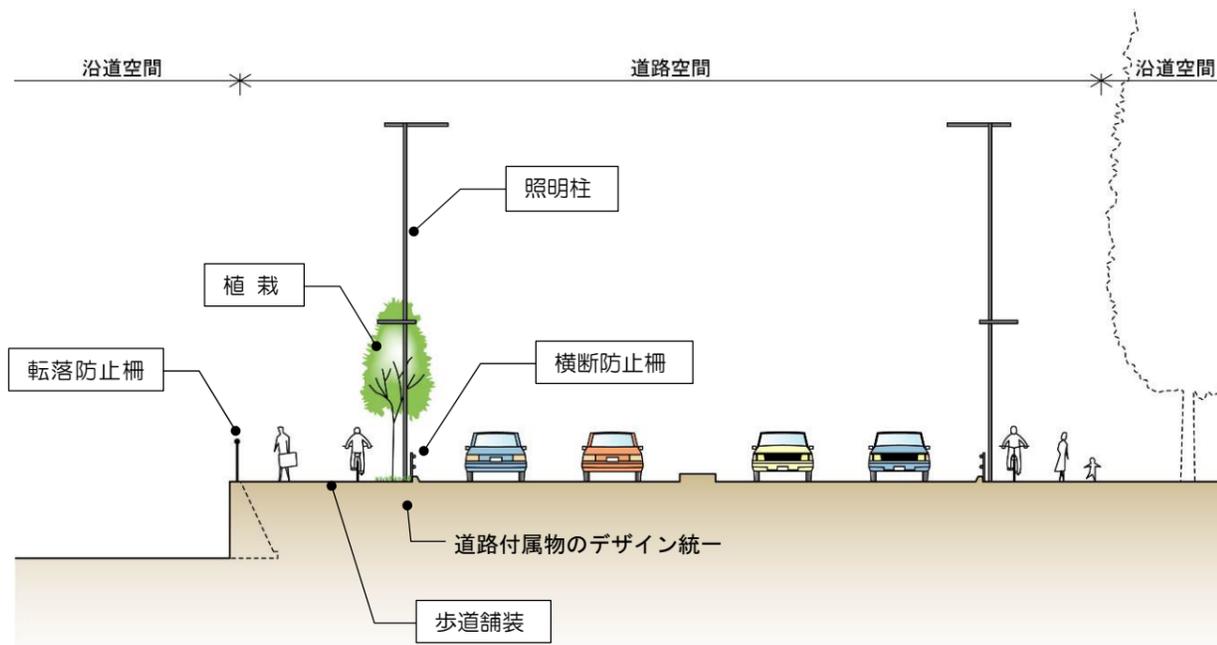
富士北麓を代表する落ち着きと風格のある道路空間の形成

●景観形成方針（案）

1. ユニバーサルデザインに配慮した良好な歩行環境の実現
2. デザインの統一感による沿道の一体的な空間の形成
3. 沿道植栽による豊かな自然環境との調和
4. 将来のメンテナンスのしやすさへの配慮

●主な道路付属物（デザインの対象）

- ・ 舗装
- ・ 転落防止柵、横断防止柵、車止め
- ・ 照明柱
- ・ 植栽



【歩行空間の景観形成の展開方針（案）】

1. ユニバーサルデザインに配慮した歩行環境の実現

高齢者や障害者等はもちろん、歩行者の誰もが安心してスムーズに移動できる歩行環境を整備する。

- 歩道舗装の滑りにくい表面仕上げの採用
- 交差点部や車両乗り入れ部の緩勾配化と段差の軽減
- 適切な場所への視覚障害者用ブロックの設置



交差点部の段差軽減のイメージ

2. デザインの統一感による沿道の一体的な空間の形成

道路付属物のデザインの統一をはかり、沿道植栽とともに、沿道の一体的な空間形成を図る。

- 道路付属物の基本形状の統一
- 道路付属物の色彩の統一
- 道路付属物の高質化によるシンボル空間の形成(重点検討区間)



沿道の一体的空間形成のイメージ

3. 沿道植栽による豊かな自然環境との調和

人工的な印象をやわらげ、富士山麓の豊かな自然を道路空間に取り込む沿道植栽を配置する。

- 緑陰により歩行環境を豊かにする高木植栽（休憩拠点など）
- ドライバーの視線を誘導する連続性のある植栽
- 横断防止を兼ねた低木植栽（最小限の横断防止柵の設置）



横断防止を兼ねた植栽イメージ

4. 将来のメンテナンスのしやすさへの配慮

施設整備後のメンテナンスは長期にわたるため、道路付属物は、補修しやすく、全面交換にも対応できるものとする。

- 耐久性が高く、素材、塗装等の採用



耐久性の高い道路付属物のイメージ